

摩訶般若波羅蜜多心經

観自在菩薩 行深般若波羅蜜多時 照見五蘊

皆空 度一切苦厄 舍利子 色不異空 空不異

色 色即是空 空即是色 受想行識亦復如是

舍利子 是諸法空相 不生不滅 不垢不淨

不增不減 是故空中 無色無受想行識 無眼

耳鼻舌身意 無色声香味触法 無眼界乃至無意

識界しきかい 無無明亦無無明むーむーみようやくむーむーみようじん 尽ないしー 乃至無老死むーろうしー 亦無老やくむーろう

死尽しーじん 無苦集滅道むーくーしゆうめつどう 無智亦無得むーちーやくむーとく 以無所得故いーむーしよーとくこー

菩提薩垂ぼーだいさつたー 依般若波羅蜜多故えーはんにははーらーみーたーこー 心無罣礙しんむーけーげー 無罣礙むーけーげー

故こー 無有恐怖むーうーくーふー 遠離一切顛倒夢想おんりーいつさいてんどうむーそう 究竟涅槃くーぎようねーはん

三世諸仏さんぜーしよーぶつ 依般若波羅蜜多故えーはんにははーらーみーたーこー 得阿耨多羅三藐とくあーのくたらーさんみやく

三菩提さんぼーだい 故知般若波羅蜜多こーちーはんにははーらーみーたー 是大神呪ぜーだいじんしゆーぜーだいみよう 是大明ぜーだいじんしゆーぜーだいみよう

呪しゆー 是無上呪ぜーむーじようしゆー 是無等等呪ぜーむーとうどうしゆー 能除一切苦真のうじよーいつさいくーしん

実不虛 じつふこー 故説般若波羅蜜多呪 こーせつはんにはーはーらーみーたーしゆー 即説呪曰 そくせつしゆーわつ

ぎやーてー 揭諦 ぎやーてー 揭諦 はーらーぎやーてー 波羅揭諦 はらそうぎやーてー 波羅僧揭諦 ぼーじーそ 菩提薩

婆訶般若心經 わかーはんにはんにやーしんぎよう

白隱禪師坐禪和讚 はく いん ぜん じ ざ ぜん わ さん

衆生本來仏なり しゆ じよう ほん らい ほとけ 水と氷の如くにて みず こおり ごと

水を離れて氷なく みず はなれ こおり 衆生の外に仏なし しゆ じよう がい ほか ほとけ

水を離れて氷なく みず はなれ こおり 衆生の外に仏なし しゆ じよう がい ほか ほとけ

衆生しゅじょう近ちかきを知らしずして

遠とおく求もとむるはかなさよ

たたとえば水みずの中なかにいて

渴かつを叫さけぶが如ごとくなり

長者ちやうじの家いえの子ことなりて

貧里ひんりに迷めいうに異ことならず

六趣ろくしゅ輪廻りんの因縁ねんは

己おのれが愚痴ぐちの閻路やみじなり

閻路やみじに閻路やみじを踏ふみそえ

いつか生しょう死じを離はなるべき

夫それ摩訶衍まかえんの禅定ぜんじようは

称歎しょうたんするに余あまりあり

布施ふせや持戒じかいの諸波羅蜜しよはららみつ

念ねん仏ぶつ懺悔さんげ修行しゆぎよう等とう

其品多き諸善行

皆この中に帰するなり

一座の功をなす人も

積みし無量の罪ほろぶ

悪趣いづくに有りぬべき

浄土即ち遠からず

辱なくも此の法を

一たび耳にふるる時

讚嘆随喜する人は

福を得ること限りなし

いわんや自ら回向して

直に自性を証すれば

自性即ち無性にて

已に戲論を離れたり

因果いんが一如いちにの門もんひらけ

無む二に無む三さんの道みち直なおし

無む相そうの相そうを相そうとして

行ゆくも帰かるも余よ所そならず

無む念ねんの念ねんを念ねんとして

謳うたうも舞まうも法のりの聲こえ

三ざん昧まい無む礙げの空そらひろく

四し智ち円えん明みようの月つき冴さえん

此この時とき何なにをか求もとむべき

寂じやく滅めつ現げん前ぜんする故ゆえに

当とう処しよ即すなわち蓮れん華げ国こく

此この身み即すなわち仏ほとけなり

宗門安心章

第一信心皈依

万劫にも受け難きは人身、億劫にも遇い難きは仏

法なり。われら今さいわいに受け難き人身を受け、

遇い難き仏法に遇う、宿善のいたすところと雖も、

仏祖広大の恩徳に依らざるなし。いかでか歓喜し踊

躍せざらんや。偏に信心帰依の心を発し、如説に

修行しゆぎようをはげむべし。空むなしく一生いつしやうを過すごして、永劫やうぎやうに
悔くいを遺のこすことなかれ。信しんは道源どうげん功德くどくの母ははにして、行ぎよう
善ぜんの本もとはすなわち帰依きえにあり。至心ししんに合掌がっしやうし、篤あつく
三宝さんぼうを敬うやまうべし。三宝さんぼうとは仏法僧ぶつぽうそんなり。四生ししやうの終しゆう
帰き、万国ばんこくの極宗ごくしゆう、何れいずの世よ、何れいずの人ひとか、この法ほうを
尊たつとばざらん。人ひと尤ひとはなほだ悪あしきは鮮すくなし。よく教おしうれ
ばこれしたがに従したがう。それ三宝さんぼうに帰きせずんば、何なにを以もつてか

枉まがれるを直なおうせん。恭うやうやしく大だい法ほうの源えんをたずぬる

世せ尊そんじじょう道どう

玉ぎ步よくほ

鹿ろく苑おん

運はこばして

に、世尊成道のあかつき、玉歩を鹿苑に運ばして、

五ご比び丘く

親したしく

四した諦たいの

法ほう門もんを

説ときたもう。

三さん

五比丘のために親しく四諦の法門を説きたもう。三

宝ぼう

この時とき始はじめて

世よに

出いず。

宝この時始めて世に出ず。

現げん前ぜん三さん宝ぼう

と称しょうした

世せ尊そん

これを現前三宝と称したてまつる。世尊ひとたび

涅槃ねはん

の雲くも

にかくれたまえば、大衆だいしゅう悲ひ泣き哀あ恋い止れんみ難や

難がた

涅槃の雲にかくれたまえば、大衆悲泣哀恋止み難

或あるいは

石いしに

刻きざみ、

紙かみに

写うつして、

巍ぎ々ぎたる

光こう影ようを

末まつ

或は石に刻み、紙に写して、巍々たる光影を末

代だいにしの偲あるいび、或あるいは貝葉ばいように記しるし、黄卷こうかんに録ろくして、一いち代だいの

せつぽうことごと ばんせい つた またえんちようほうぼう びくしゆう

説法せつぽう 悉しつく万世ばんせいに伝つたう。又また円頂えんちよう方袍ほうぼうの比丘衆びくしゆうは

しぐ がんりん むち じようぎ しんいぎ ご

たけく四弘しぐの願輪がんりんに鞭むちうつて、上座じようぎの真威儀しんいぎを、五ご

じよく まつせ えんぜん しようぼうご じ ひ

濁じよくの末世まつせに宛然えんぜんしたもう。みなこれ正法護持しようぼうごの悲ひ

願がんにしてこれを住持じゆうじの三宝さんぼうと名なづく。しかも三さん宝ぼう

願がんにしてこれを住持じゆうじの三さん宝ぼうと名なづく。しかも三さん宝ぼう

の实体じつたいは、元来がんらい人々にんにん自性じししようの中うちに本具ほんぐしたれば、自みずか

の实体じつたいは、元来がんらい人々にんにん自性じししようの中うちに本具ほんぐしたれば、自みずか

ら自じの覚性かくししように帰依きえして、念々ねんねん痴闇ちあんの心しんなき、これ

ら自じの覚性かくししように帰依きえして、念々ねんねん痴闇ちあんの心しんなき、これ

をきえぶつむじようそん帰依きえ仏無みずか上尊じといしんぼうい、自きえら自きえの心法きえに帰依きえして

煩悩ぼんのうじゃけん邪見しんの心しんなき、これをきえほうりよくそん帰依法きえ離欲尊みずといみずう。自みず

ら自じの柔軟心じゆうなんしんに帰依きえして、自じなく他たなく一切衆生いっさいしゆじよう

と和敬随順わけいずいじゆんするをきえそうわごうそん帰依僧和合尊きえといきえう。もとより

一いったい体にして自性じしようの靈妙れいみようを離はなれず、故ゆえにこれをいったい一いったい

三寶さんぼうと名なづく。

上來三寶じようらいさんぼうに三種さんしゆの別べつありと雖いえども、仔細しさいに点檢てんけんす

ればすなわち別異べつゐにあらず。偏ひとえにわが大恩教主だいおんきよしゆ

釈迦牟尼しやかむにぶつ仏ぶつの成等正覚じやうとうしやうがくに由来ゆらいし、三世一切さんぜいっさいの諸しよ

仏ぶつ諸尊しよそんも、南無釈迦牟尼なむしやかむにぶつ仏ぶつの一念唱名いちねんしよみやうの中うちには含ふく

ませたもう。されば朝夕随所ちやうせきずいしよに南無釈迦牟尼なむしやかむにぶつ仏ぶつと、

一心いっしんに唱え至心ししんに帰命きみやうしたてまつるべし。

至心ししんに帰命きみやうしたてまつるが故ゆえに、今いまよりのち、尽未じんみ

来際らいさい、誓ちかつて一切いっさいの邪魔外道じやまげどうには帰依きえせざるべし。

されば諸しよぶつ仏しよ諸ぼ菩薩さつむ無へん辺がんの願かい海せつに摂しゆ取しゆせられて、殊しゆ
勝しよを求もとめんと要ようせざれども、殊しゆ勝しよ 自いたら至いたつて、
光明こうみ不ふ尽じんの生しよ涯うがいを恵めぐまるること決けつ定じよして疑うたい
あるべからず。

第だい二に 自じ 覺かく 安あん 心じん

悲かなしいかな、われら一いち念ねんに悟さとれば直じきにこれ仏ほとけと
なるを知しらずして、却かえつて一いち念ねん迷まようが故ゆえに、自みずら凡ぼん

夫ぶとなりさがる。かくも尊たつとき仏法ぶつぽうを耳みみにしつつも、

一向いっこうに信心しんじん帰依きえの心こころなく、生死しやうじの海うみに浮沈ふちんして、

三毒さんどく五欲ごよくの妄念もうねんと憎愛ぞうあい取捨しゆしやの迷執めいしゆうに、日夜にちや造業ぞうごう造ぞう

作さして、永劫ようごう出離しゆつりの際きわもなし。

たまたま信心しんじんおこせども、自心じしん仏ほとけと知らざれば、

ただ徒いたずらに狂奔きやうほんし、傍家ぼうけ波々はは地に、仏ほとけを求め、法ほう

を求めもとて止むやときなし。憐あわれというも愚おろかなり。

いずれの人ひとも速すみやかに、善智識ぜんちしきには遭あいまつり、無む

みようちようや ゆめ す じようらくねはん いりあい かね こころ

明長夜の夢を捨て、常楽涅槃に入相の、鐘に心

をすましつつ、菩提心ぼだいしんをぞおこすべし。

そもそも諸仏出世の一大事因縁は、衆生しゆじようをして、

しよぶつしゆつせ いちだいじいんねん しゆじよう

仏知見ぶつちけんを開かひらしめ、衆生しゆじように仏知見ぶつちけんを示しめし、衆生しゆじように、

ぶつちけん ひら しゆじよう ぶつちけん しめ しゆじよう

仏知見ぶつちけんを悟さとらしめ、衆生しゆじようをして、仏知見ぶつちけんの道どうに入いら

ぶつちけん さと しゆじよう ぶつちけん どう い

しめんがためなりと、大聖世尊だいししようせそんは示しめされぬ。

だいししようせそん しめ

しかもりょうぜんえじょう靈山會上にて、ぼんてんのう梵天王がけん献じたるこんぱら金波羅

げ華をねん拈じつつ、はがんみしやう破顔微笑をめ賞でたまひ、しやうぼうげん正法眼

ぞう蔵、ねはんみやうしん涅槃妙心、じつそうみみやう実相微妙のほうもん法門を、まかかしやう摩訶迦葉に

つたぞ伝えらる。

それよりのてきてきそうじやう々相承し、にじゆうはちだいぼだいだるまだいし二十八代菩提達摩大師を

ば、しゆうびそわが宗鼻祖とあお仰ぐなり。とくとく得々としてなんかい南海にう浮か

び、さんせんりがいと三千里外遠くだいほう大法をしんど震土につた伝え、もくもく黙々として、

嵩山すうざんに九年くねん面壁めんぺきなしたもう。祖師そし西来意せいらいい、もとより

梁王りやうおうも識しらざるひつきようところ畢竟むくどく無功德かくねん。廓然かくねんとして

聖諦しょうたいなく、隻履せきり西にしに去さつてより杳ようとして消息しょうそくなし。

然しかりと雖いえども、祖師そしもこの土どに來きたる、法ほうを伝つたえて迷めい

情じようを救すくわんがためなり。不立ふりゆう文字もんじ、教外きようげ別伝べつでん、直じき

に人心じんしんを指ゆびさして、見性けんし成仏しょうじせしめらる。大悲恩だいひおん

徳極とくきわみなし。

さればなんじ 爾ごんら言か下みずに自えら回こう向へん返しょう照して、更さらに

別べつ処しよに求もとめざれ。身しん心じんと祖そ仏ぶつと別べつならざることを知し

つて、当とう下げに無ぶ事じなるべし。山さん僧ぞうが見けん処じよに約やくすれば、

釈しゃ迦かと別べつならず。眼めに在あつては見みるといい、耳みみに在あつ

ては聞きくといい、鼻はなに在あつては香かを嗅かぎ、口くちに在あつ

ては談だん論ろんし、手てに在あつては執しゆ捉やくし、足あしに在あつては運うん

奔ほんす。この何なにをか欠かん少しょうすと、宗しゆう祖そ臨りん濟ぎ禅ざん師じは呵かせ

られたり。

病やまい何れの所ところぞや。病やまい不自信ふじしんの所ところにあり。即今そつこん

聴ちよう法底ぼうていを識得しきとくすれば、自性じしやうすなわち無性むしやうにて、已すで

に戲論けろんを離はなれたり。不安ふあんの心しんを求もとむるに、不可得ふかどくな

りてつと徹てつしてぞ、二祖安心にそあんじんは得えたまえる。

寒暑かんしよたがいに移うつれども、慧玄えげんが這裡しやりに生死しやうじは無な

ししめと示しめされぬ。日日にちにちこれ好日こうじつ、人人にんにんこれ真人しんにん。行ゆか

んと要ようすれば即すなわち行きゆ、坐ざせんと要ようすれば即すなわち坐ざす。餓うえ来きたれば飯はんを喫きつし、困こんじ来きたれば即すなわち眠ねむる。
ただ平びよう常じようにして無ぶ事じなれば、無ぶ事じこれ貴きにん人と悟さとるべし。

第だい三さん行ぎよう事じ仏ぶつ道どう

正しよう法ぼうの道みち多た途となれど、要よう約やくすれば、戒かい定じよう慧えの三さん学がくを出いでず。三さん学がくは自じの一心いつしんに帰きし、定じよう慧えもと不ふ二に

にしてぜんかいいちによ 禅戒一如のみようどう 妙道なり。

戒かいとは止し悪あく修しゆ善ぜんの義ぎ、人人心地にんにんしんちの様相ようそうなり。故ゆえに

衆生しゆじようぶつ 仏戒ぶつかいを受うくれば、すなわち諸仏しよぶつの位くらゐに入るい。

位くらゐ 大覺だいかくに同おなじうし了おわる。まさぶつに仏戒ぶつかいを受うけんには、

無始劫来むしごうらいの罪障ざいしやう 悉ごとくみなさんげ 懺悔さんげすべし。懺悔さんげせん

と欲ほつせば、端坐たんざして実相じつそうを觀かんぜよ。衆罪しゆうざいは霜露そうろの如ごと

し、慧日えいちよくこれを消しようせん。已すでに懺悔さんげし了おわれば、身しん

くいさんごうしやうじやう
口意三業清浄にして方に菩薩の大戒を受くべし。

だいいちせつしやう
第一殺生するなかれ。もろもろの生命あるもの、

ことさらに殺すなかれ。自ら殺し、他をして殺さし

むることなかれ。衆生仏性具しぬれば、すなわち

いずれも仏子なり。いかでか殺すに忍びんや。

だいにちゆうとう
第二倫盗するなかれ。吾等もとより空手にして、

よきた
この世に來り、空手にして又歸る。一紙半錢たりと

雖も、いえど 元来吾等にがんらいわれら 所有なし。しよゆう わずかにか 可得とく の見けん あ

らば、すなわちぬす 盗むと示しめ されぬ。一切いっさい の財宝ざいほう 惜おし しみ

なく、あまねく衆生しゆじやう に布施ふせ すべし。いかでかぬす 盗むに

しの 忍びんや。

第三だいさん 邪淫じやいん するなかれ。自性じしやう 元来清淨がんらいしやうじやう なれば、

行事ぎやうじ も自おのずか ら清淨しやうじやう なるを、梵行ぼんぎやう とては尊たつと べり。

たとい夫婦ふうふ の中なか とても、淫みだ らの所行しよぎやう あるなかれ。家か

庭ていはこれ敬愛けいあいの場にわにして、子女しじよ養育よういくの道場どうじようなり。

これを乱みだすに忍しのびんや。

第四だいし妄語もうごするなかれ。得えざるを得えたりと誇ほこり、到いたら

ざるを到いたれりと説とくことなかれ。直心じきしんはこれ道場どうじような

り。行ぎよう住坐臥じゆうざがに脚きや下つかを照し顧ようし、愚ぐの如ごとく魯ろの如ごと

く、須すべらく潜行せんこう密用みつゆうすべし。自みずら独ひとりを慎つつしむべ

く、他たを欺あざむくに忍しのびんや。

だいがおんじゆ
第五飲酒するなかれ。愚痴ぐちの酒さけを飲のむことなかれ、

むみよう さけ よ
無明の酒に酔うなかれ。自性じしようれい靈妙みよう、主人しゆじん公慳々こうせいせいと

さ
して覚ざいめたれば、随所ずいしよに主しゆとなつて、立処りつしよ皆真みなしんなり。

みずか じしよう くら
自みら自性じしようを晦くらまして、他たをして迷惑めいわくせしめんや。

ごと
かくの如ごときの菩薩ぼさつの大戒だいかい、当まさに尊そん重ちようし珍敬ちんきようすべ

あん めい あ
し。闇あんに明めいに遇あい、貧人ひんじんの宝たからを得えたるが如ごとし、こ

だいいし
れはこれわれらが大師だいいしなり。今身こんじんより仏身ぶつしんに至いたるる

まで、かた恭じけなくもぎようじ行持して、けたい懈怠のこころ心なかるべし。

じよう

定とはざぜんざんまい坐禅三昧なり。外ほか一切いっさい善悪のきようがい境界に向つ

しんねんおこ

てな心念起らざる、これをな名づけてざ坐となし、うちじしよう内自性

み

を見てどう動ぜざる、これをな名づけてぜん禅となす。三昧と

しようねんそうぞく

はぎよう正念相續なり。行も亦またぜん禅、坐も亦またぜん禅、ごもくどうじよう語黙動静

あんねん

安然としてせんいつ専一に、こじ己事をきゆうめい究明するは、ざぜん坐禅のようたい要諦

しゆうもんだいいち

にして、ぎようじ宗門第一の行事なり。

慧えとは智慧ちえなり。仏智ぶつちなり。自我じがの迷妄めいもうを脱却だつきやくし

て、不二ふにの妙道みようどうに徹てつするなり。尽十方世界じんじつぽうせかいは沙門しゃもんの

眼まなこ、縦たてには三世さんぜを貫つらぬき、横よこには十方じつぽうに彌淪みりんして、

刹土せつどとしてわが土どに非あらざるなく、瞬時しゆんじとしてわが時じ

光こうに非あらざるなし。今いまこの三界さんがいは悉ことごとくこれわが有うに

して、その中うちの衆生しゆじようは皆みなこれわが子こなり。

衆生しゆじよう病やむが故ゆえにわれ又また病やむ。慈悲じひ愛憐あいれんせざらん

や。劫ごう石せきたとい消しょうするのひ日ひありともわが願がん力りきは尽つき

ぎらん。尽じん未み来らい際さい、報ほう恩おん謝しゃ徳とくの思おもい、興こう隆りゅう仏ぶつ法ぽうの

志し、寤ご寐みにも忘わするべからず。